● フランス――事例　活動状況と生活満足度

		A	B	C
基本属性	地域	都市部	都市部	地方
	性別	男性	女性	男性
	年齢	62	98	69
	暮らし方	独り暮らし	娘と2人暮らし	妻と2人暮らし
	職業	観光バスの運転手、塗装工	元農業省監察官	元行政管理職、現アパート管理人
Q1 日常的に行っている活動	ある	○		○
	ない		○	
	① 形態	①観光バスの運転手 ②塗装工		アパートの管理人
	頻度	①週5日　10時間／日 ②週2日　5時間／日		月曜～土曜24時間
	② 報酬	あり		なし
	③ 時期	2004年から		60歳から
	④ 活動している理由	収入のため		
	⑤ 活動していない理由		病気／障害のため活動することができないから	
Q2 家計	① 必要経費/月	10万円～ 20万円未満	30万円以上	10万円～ 20万円未満
	② 使途 生活維持	40%	45%	40%
	生活に潤い	40%	10%	20%
	予防・医療・介護	0%	20%	20%
	その他(税金・保険等)	20%	25%	20%
	わからない			
Q3 財源	公的年金、企業年金、個人年金	0%	100%	100%
	賃金収入(本人と家族)	95%	0%	0%
	利子や配当、家賃収入	5%	0%	0%
	貯金の取り崩し	0%	0%	0%
	その他	0%	0%	0%
	わからない			
Q4	やりくりの状況	プラスマイナスゼロ	十分やりくりができ、黒字	十分やりくりができ、黒字
Q5	収入増の使い道	貯蓄	―	生活の維持のための基本支出 生活に潤いを与える部分
Q6	暮らしの満足度	ある程度満足している	ある程度満足している	ある程度満足している
	理由			もう20歳若かったらもっと満足していただろうな

	D	E	F
	地方	都市部	都市部
	男性	男性	男性
	64	65	62
	女性と2人暮らし	妻と2人暮らし	妻と2人暮らし
	元技術者	医師	医師
		○	○
	○		
		医師	① 医師 ② アパートの管理組合 ③ 科学協会の会議参加
			② 月1回 ③ 週1 ～ 2回
		あり	① あり　②③なし
		30年以上前から	②③30年前から
			おもしろそうだったから 自分の仕事と今後のキャリアの目標のため
	45年のキャリアの後、今は誰からも自由でありたいし、気兼ねや強制は望んでいないため		
	10万円～ 20万円未満	30万円以上	30万円以上
	60%	20%	45%
	10%	20%	20%
	5%	20%	10%
	25%	40%	25%
	40%	50%	60%
	35%	20%	40%
	25%	20%	0%
	0%	10%	0%
	0%	0%	0%
	プラスマイナスゼロ	プラスマイナスゼロ	プラスマイナスゼロ
	生活に潤いを与える部分	—	生活に潤いを与える部分
	あまり満足していない	ある程度満足している	ある程度満足している
	特にユーロの推移 生活水準の上昇が止まること	短時間の職業生活と余暇のバランスがとても良いこと	職業生活と家庭生活のバランスに満足

フランスの高齢者の生活　暮らしを自然に楽しもうとする高齢者

津曲共和　在フランス日本大使館　一等書記官

1　高齢者向け社会保障制度の概要と最近の動向

フランスの社会保障制度は、日本と同様、職種ごとに加入する制度が異なる社会保険制度を基礎とし、その財源は主として被用者及び雇用主の社会保険料である。一方、現役を引退しても引き続き現役時代と同一の制度に加入（財政調整が行われている）すること等が日本と異なる。

医療保険は国民全員を対象とするもので基本的に窓口負担はなく、また、老齢年金制度に基づく平均支給月額（2008年）は、女性1,102ユーロ（約11万円）、男性1,588ユーロ（約16万円）（国立統計経済研究所（INSEE）資料より）となっているなど、社会保障が充実している国の1つである。しかし、社会保障制度の赤字は大きく、年金制度や医療保険制度の赤字縮減は、毎年の予算編成における大きな争点の1つとなっている。近年は度重なる経済金融危機の影響もあって、フランス政府は緊縮財政に努めており、社会保障分野も例外ではない。

年金制度については、2010年秋の年金改革法により、支給開始年齢を段階的に60歳から62歳に引き上げることが決定された。その際には、デモやストライキが頻発し、一部都市では若者が暴徒化するなど大きな反対運動が起こった。

また、医療保険制度については、後発医薬品の使用促進、医療内容の最適化などを通じた支出の伸びの抑制を図っている。しかし、90%以上の国民が追加的な付加保険に加入しており、これにより窓口での自己負担が全額カバーされていることや、長期的な疾患（ガンだけでなく、糖尿病の初期など軽度な疾患も含む。）は100%償還であることは、医療保険財政を圧迫していると指摘されている。

公的介護サービスについては、現在は主として福祉制度の一環として提供されている。昨年夏頃まで今後の改革の方向性について国民的に議論されていたが、本年春の大統領選挙を控えて、新たな施策の決定・実施はストップしている。今日の社会的な問題は、要介護者、特に施設入所者の経済的負担の大きさであるが、これを解消するには何らかの形での負担増が避けられないところから、大統領選挙後に持ち越されたのであろう。

社会保障制度はすべてのフランス人にとって身近な問題であるため、大統領選挙の候補者は今後提示する選挙公約においてその改革に言及すると考えられる。欧州債務危機の中で社会保障収支の均衡は必須であり、どのような政策が示されるのかが注目される。

2　フランス人の高齢者の生活

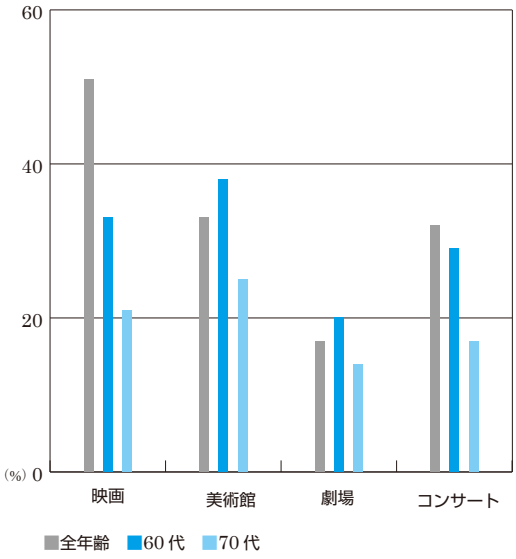
フランスの高齢化率は、日本とはスピードが異なるものの、平均寿命の伸長に伴い着実に上昇すると推計されている。また、国立人口学研究所（INDE）発表資料（2010年1月）によると、1962年には独り暮らしの女性の比率8%に対し、男性は4%だったのが、2007年には女性の比率が16%、男性の比率12%となっている。独居者の比率は年齢とともに上昇するものであり、特に女性は40歳以上の8%、80歳以上の55%が独り暮らしとなっている。同伴者の男性に先立たれたり、または母子家庭の場合は子どもの独立など、女性が独り暮らしになる可能性は男性よりも高いと言われている。実子との関わりは年々薄くなっているようであり、日曜日午後に家族と

過ごす習慣を維持しているのは、ごく限られた家庭である。

しかし、フランスの高齢者の主な収入である年金の支給額は低くなく、一定の資産を有していれば生活に困ることはない。一方で、パリ近郊などの都市において年金収入の少ない人の生活は苦しく、慈善団体から食事をもらっている高齢者もいる。地方であれば、収入は少なくても友人や近親者からの支援(連帯)を受けることができるため、暮らしぶりは都市とは異なる。

3 生活を楽しもうとするフランス人高齢者

このように年金収入や人間関係は多様であるが、一般的にフランスの高齢者は外出、旅行、趣味などに積極的であり、自分の生活を楽しんでいる人が多い。日本のように仕事を引退して元気がなくなる人は稀であり、むしろ、男女を問わず、引退後の自由な時間を楽しみにしている人が多数派である。また、仕事をしている高齢者でも、今回のアンケート結果のように、「生活のバランス」が良いことが暮らしの満足度につながっていることがわかる。



また、フランスの高齢者には、収入の多寡を問わず、生活を楽しもうとする傾向が現役世代と同様にある。例えば、バレエについても、若者と同様のプログラム・練習は身体的に困難であるが、自分の体力に応じて若者と一緒に踊ることをためらわないし、教室側も受け入れていると聞く。フランスの海岸(ビーチ)では、子どもや若者だけでなく、高齢者夫婦が水着で海水浴を楽しんでいる姿を頻繁に見かける。使いこなしているかはともかくとして、最新の携帯電話を持っている人もたくさんいる。

フランス人の文化的生活についての調査(INSEE)によれば、映画に行った人は51%、33%、21%(1年以内に1回以上。順に全年齢、60代、70代。以下同じ)、美術館等に行った人は33%、38%、25%、劇場に行った人は17%、20%、14%、コンサートに行った人は32%、29%、17%となっており、70代になっても外出を楽しむ人が多いことが注目される(図参照)。

今回のアンケート結果でも、月間の必要経費に関わらず、「暮らしの満足度」について「ある程度満足している」と回答している人が多い。また、DさんやFさんは「Q4 やりくりの状況」について「プラスマイナスゼロ」、「Q5 収入増の使い道」について「生活に潤いを与える部分」と回答していることや、Aさんは「Q4 やりくりの状況」について「プラスマイナスゼロ」であるが、「Q2 家計」の②使途の40%は「生活に潤い」となっていることからも、フランス

人の高齢者は、高収入であるかどうかに関わらず、生活を充実させる意向を持っていることが窺える。

彼らは、自分自身で自分を高齢者扱いしないし、高齢者扱いされることも好まない。日本であれば「もう年だからね。」と自分でハードルを上げたり、「縁側で静かにお茶を飲む好々爺」に何となく収まってしまうのかもしれないし、または、お年寄りが新しいことに取り組むと「年寄りの冷や水」などと言われることもあるが、フランスにはそのような年齢による分け隔てはないと感じる。

これは、フランスの社会的な慣行やメンタリティに根付くものであるが、日本の働く高齢者はフランスよりもはるかに多く、日本にも元気な高齢者はたくさんいる。

日本の社会保障給付費を見ると、高齢者向け施策に関する比率は非常に高い。しかし、社会保障を充実させるだけでは高齢者の暮らしの満足度上昇につながるとは限らない。高齢者が自然に湧いてくる興味関心のあることでご自身の生活を自由に彩ること、それを周囲も無理のない範囲で自然に受け入れることが、高齢者本人だけでなく、その家族も人生をより楽しむことにつながるのではないかと感じている。

お鯉さん

1907 年（明治 40 年）生まれ
現役三味線奏者（徳島県）